

平成 25 年度第 2 回全体会ワークショップのまとめと提案

平成 25 年度の実践として良かったこと

○新たな交流が生まれたこと

- ・生田緑地に関わる様々な人が一堂に会する場所ができた
- ・生田緑地に関わる団体のことが知ることができて良かった

○意見が取組みとなり、実施されたこと

- ・切手プロジェクトの取り組みで生田緑地の魅力を発信できた
- ・生田緑地への案内を考えるプロジェクトで地域の様々な問題を発見することや、案内することができるようになった

○情報の共有化ができたこと

- ・保全と利用に関する情報を共有化できる
- ・イベントやボランティア活動等の情報共有ができる

平成 25 年度の実践として不足していたこと

○団体同士が気軽に交流し、情報交換・意見交換する方法

- ・団体同士の交流から新たな取り組みが生まれると良い
- ・団体同士の結びつきを強めたい
- ・他の団体の活動内容を把握していない
- ・会議や活動の情報が伝わってこない
- ・気軽に、自由に話す場所が欲しい
- ・サロンや懇談会が必要である
- ・花見イベント、暑気払い、忘年会などの交流の場所が欲しい

[解決案]

- ・気軽に会員が交流できる「サロンのな場」を作る (p2 参照)

○生田緑地マネジメント会議の運営方法

- ・(各主体を生かせるように) テーマ別で話し合いができるが良い
- ・協働のプラットフォームについての議論と実践
- ・大所帯すぎて動きが鈍い

[解決案]

- ・コア会議で、マネジメント会議の運営について考える (p3 参照)
- ・運営会議等でテーマ別にグループを作って話し合う場を作る (p4 参照)

○生田緑地の自然について知ってもらう方法

- ・自然のことを知る機会がない
- ・生田緑地全体を見る機会がない
- ・自然(動物・植物)を代弁する人を増やしたい

[解決案]

- ・誰もが興味を持つ自然会議を開催する
- ・これまでの整備箇所についてモニタリングする

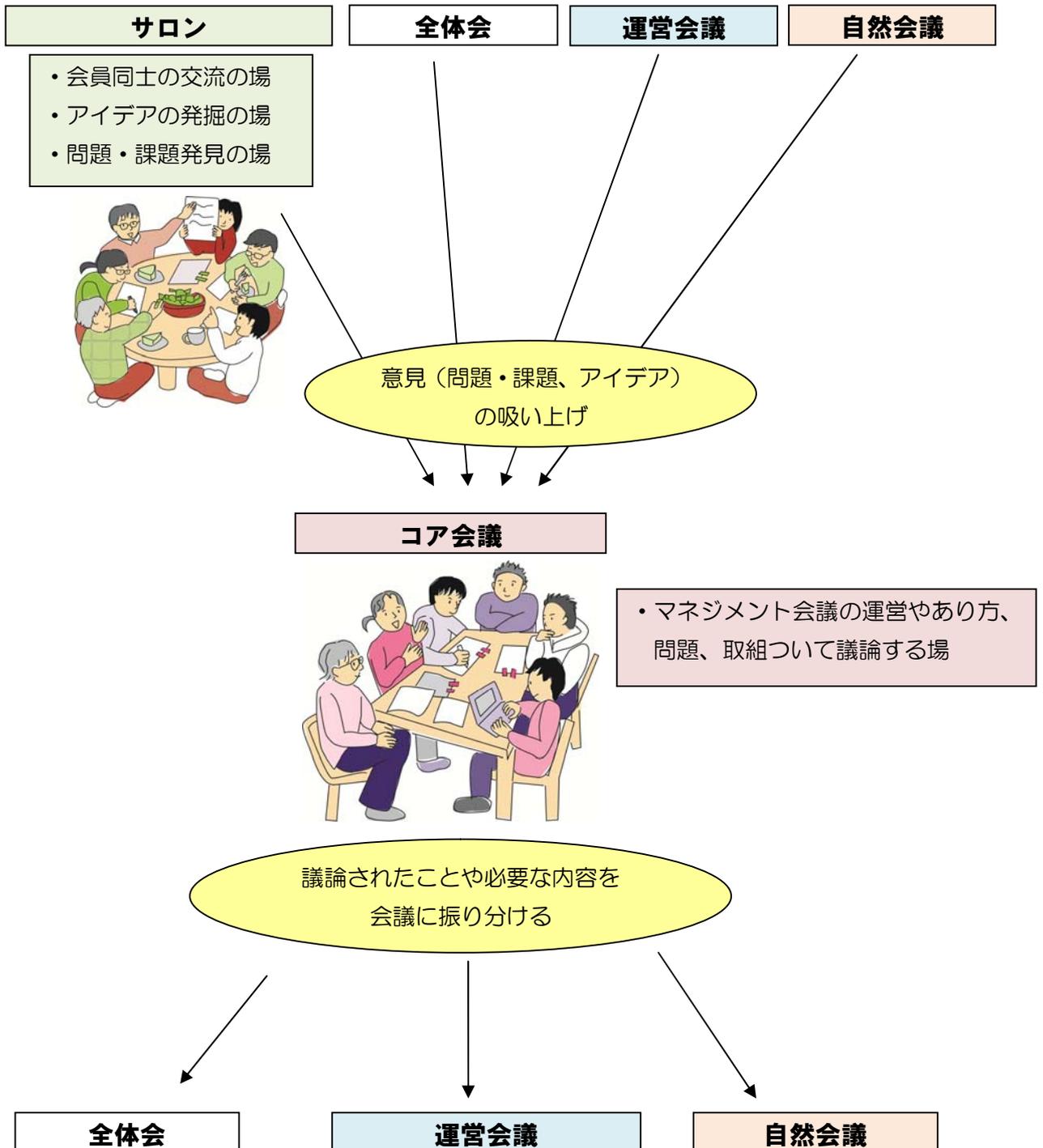
気軽に会員が交流できる「サロン」について（イメージ）

◇概要◇

- 対象者：マネジメント会議会員と会員から紹介を受けた者
- 場所：ビジターセンター2階
- 頻度：月1回、曜日や時間帯を固定させて定期的実施
- 内容：
 - ・基本的に、自由に何でも話せる場。
 - ・サロンの話し合いで出たことをサロン参加者から運営会議へ挙げていくことができる
- サロンの進め方の例
 - ・参加者が興味を持つ話題（3館からのレクチャー、参加者からの情報提供等）を20分程度実施。（来る楽しみがある。普段聞けない話が聞ける。）
 - ・昼食会や、お茶会（会費100円程度を集めてお茶やお菓子を用意）を兼ねて実施。



コア会議の位置付けとマネジメント会議の流れ（イメージ）



テーマ別のグループワーク（イメージ）

○興味があるテーマのグループに入り、話し合ってもらおう。

○最後に各グループで議論したことを発表してもらい全体で共有する。



テーマ①：生田緑地のルール



テーマ②：生田緑地のイベント

興味があるテーマのグループに入って話し合う



テーマ③：生田緑地の魅力発信



テーマ④：生田緑地周辺の地域活性化

第2回全体会 ワークショップ 模造紙とりまとめ

テーマ：「協働のプラットフォーム」として
何が良かった？何が不足していたか？

～良かったこと～

【様々な人との交流が生まれた】19

- 生田緑地に関わる様々な団体や人々を知ることが出来た。
- 様々な立場の市民の方と出会えた、知ることが出来た。
- 行政、市民団体、指定管理者など色々な立場の人と知り合えた。
- 自然保護団体と活用する団体が一つのステージに立ち意見交換が出来たことが良かった。
- 様々な活動をしている人々が「一堂に会する」。
- アイデアを出して一緒にやる。
- 各団体の活動の相互理解
- 生田緑地に関わりいろいろな人と話をする事ができた。
- 色々な価値観の方と関わり合いが持てた。集まれてよかった
- 皆んなの知恵を大いに集めることに意義がある。
- とにもかくにも皆んなが集まる場ができた。
- 知らない分野のお話を多く聞けた。
- 話し合いの場
- 大勢の人が生田緑地に関わっていると実感した。
- 顔がわかって挨拶するようになった。
- 生田緑地に関わる様々な団体や人々を知ることが出来た。
- 他団体の方々と知り合えた。
- お互いに助け合う。

【案内プロジェクト】10

- 「生田緑地ご案内」のプロジェクトが立ち上がった。
- 緑地を案内できるようになった。
- 遊園駅でばら苑への案内をさせて頂きました。（ばら苑以外の生田緑地アクセスなどを聞かれました）
- 案内プロジェクトがスタート出来て良い。
- 生田緑地への案内プロジェクト、ばら苑への案内、色々な問題が出て来て良かった。
- 生田緑地への案内を考えるプロジェクト
- ガイドツアー
- ぐるっとガイドを通して地域の新しい団体と接触があったこと。

○案内板の整備、案内板の役割、各所の何気ない「説明文」全体的に少しづつ協働が見えている。

【切手が発売された】9

- 生田緑地の写真が切手になった。
- 生田緑地記念切手完売！
- 切手ができる。
- 切手もすぐに買いました。
- 切手プロジェクト
- 写真が切手になった。
- 生田緑地の切手ができるのがよかった。
- 切手など生田緑地をPRする取組。

【発見があった】7

- 活動の広がりを知ったこと。
- 生田緑地で何が起きているか分かるようになった。
- 生田緑地の良いところを探す視点を持てる。
- 改めて新しい目で生田緑地を見ることができた。
- 様々なプロジェクトが立ち上がり生田緑地の魅力向上につながった。
- みどりに対する考え方の多様性が明らかになったこと。
- ボランティアに参加したくなった。

【情報の共有化が出来た】5

- 保全と利用を共有化できる。
- 情報共有。
- イベントやボランティア活動の情報が増えた。
- 緑地内施設の情報共有を図るためのスタートがきれた。
- イベント等の情報共有

【プロジェクトを実現する場が出来た】5

- 具体的なプロジェクトが実現できたこと。
- 会員の発案によるプロジェクトの実施
- マネジメント会議ができた。
- 自分の思っていることが実現されたこと。
- やってみたいことを提案する場ができた。

【タマフェスティバルについて】5

- 多摩区民祭、サマーミュージアムの時は民家園も入園者が多かった。
- タマフェスティバル、第一回にしては大変多くの人が出て良かった。
- サマーミュージアムを多摩川流域連携事業に活用できた。
- イベントの集客が出来た。
- 生田緑地に来て貰う、知ってもらう。

【西口園路について】4

- 西口園路整備計画について事前に知ることが出来た。
- 工事になってから慌てるのではなくいつもの観察を強化したら自分の勉強になった。
- 西口園路を工事前、中に意見を言わせてもらえた。
- 西口園路、宮前区側からのアプローチ向上に。

【バラ苑に関して】1

- バラ苑の管理はよい。

【その他】6

- 縦割り行政の弊害が解消できつつある？
- 枳形山尾葉
- 台樹木剪定で見晴らしが良くなった。
- 予算などを市が出すようになってきた。
- マネジメント会議のお陰かどうかわからないが生田緑地の来訪者は増えた。
- 注目されてよい。
- 生田緑地の整備に対して市民との話し合いのルールを示してもらったこと。

【感想など】2

- 職場（明大）で生田緑地のことが話題にできるようになった。マネジメント会議発足以来、生田緑地が少しずつ変化して（良い方向に）いるのが第三者に分かる。

～不足していたこと～

【情報の共有化不足】18

- 多様な団体との間の話し合いが少ない。
- 活動の情報が伝わってこなかったこと。
- 条例などのルールの開示不足。
- 各会議・部会の周知・共有化。
- 協働のプラットフォームの認知度が低い感じである。
- 色々とプロジェクトやイベントが実行されているのを知らなかった。
- プロジェクトにでれなかった、会議にでれなかった。
- 一応会議に顔を出していた程度でした。
- 参画のタイミングが無かったこと。
- 生田緑地マネージメント会議の内容があまりよくわからない。
- 緑地内で活動している団体の内容がよくわからない。
- どんな人がいるのかよくわからない。
- 会議の存在を知らなかった→協働の考えがなかった。
- 共有する基礎知識の不足
- 他団体の活動の内容を拝見していない。
- 価値観の共有が大きな課題
- プロジェクト実施に参画できなかった。

【会議以外の交流の場をもっと欲しい】14

- ビール
- お花見
- 忘年会、暑気払いなど交流の場をもっと欲しい。
- もちつき
- 花見大会をやっては
- 懇親会を増やす。
- サロンを作る
- 自由に話せる場を
- 東口VCで交流会
- 飲みニケーションの不足？
- 笑い
- 小さくてもイベントをやる
- おしゃべりする場
- 会議以外で会う場

【緑地の自然に関して】9

- 桜の標準木を決めて開花宣言をする。
- 生田緑地に関わる団体の中で自然（動物、植物）を代弁する人が少ない。
- 下生え（灌木、下草）を刈り込みすぎると森でなくなる。
- 森（山）→里山（雑木林）→都市公園、アナグマ、タヌキ、ノラネコ、畑もOK。
- （新種発表した正基準標本の産地の保全が少し気にかかります。
- 自然の中で樹は大切に考えられているが、花（野山の花）はだいぶ減ってきている。
- 自然の一部分だけ見てしまい全体が広くて見れない。
- 緑地全体を見る機会がない
- 自然のことを知る機会がない

【会議について】7

- 協働についての議論（自然会議）と実践
- テーマ別（各生体を生かせるように）で話し合いが出来るとうい（分科会のような）
- 一方的に押し付けられる会議が多かった。
- 運営会議は少なくとも月一回は開いて欲しい。
- 実りなき会議が増えて良くなかった。
- 整備について修理も計画段階から市民・マネジメント会議にはかって欲しい。
- 各団体の意見調整をある程度行政主導で線引きをした方が良かったと思う

【コミュニケーションについて】7

- 団体同士の交流による新たな取組みが生まれると良い。
- 連携したい団体同士をつなぐ場になると良い。
- 雰囲気固い。
- もっと楽しいことを
- 人数が多いのでコミュニケーションが難しい。
- 団体間の結びつきを強めたい。
- 違いを認め合うことの難しさ。

【案内について】4

- ばら苑の案内プロジェクトに参加できなかった。

- 案内プロジェクトの道がわかりにくい。
- 外国人にわかるか？
- 下を向いて歩く人に向けた案内表示を。

【民家園について】4

- メディアに露出した後は民家園の入園者が多い→何か有効利用できないか
- 民家園の中でしか活動していなかった
- 11/3の民家園が無料の時は入園者が多い→集客力を有効利用できないか？
- 民家園にお客を呼び込む方法は？

【市民へのアプローチについて】3

- 市民の方が楽しく活動できる基盤を整備出来なかった。
- まちづくり地域の活性化につながれば・・・
- 市民の要望（土地に対して）を受ける窓口の周知性を考える。

【広報不足】3

- 情報発信が不十分
- 市民活動団体のPRが足りなかった。
- イベント広告不足

【バリアフリー問題】2

- ばら苑車イスについての問題
- バリアフリーは施設のみの問題ではなく心の問題。他の人が手伝うことも心のバリアフリー。本人、頼む努力、まわりの人、頼まれやすく。

【その他】17

- 学生さん（3大学）の力を借りる。
- 会議の場だけではなく、現地をみんなで見る機会があってもよい。
- 3館＋緑地、民家園→伝統・歴史、青科学→科学、岡本→美術、緑地→自然、4つを統合した教育プログラムを小中生向きが出来ないか。
- 民家で一泊体験
- 駅名に生田緑地を入れたい。向ヶ丘遊園（生田緑地
- ビジターセンターが出来て良かった。生田緑地全体が見える。
- 禁煙問題は怎么样了か
- 生田緑地の工事の事を知る機会
- 若者

- 幹事
- 指定管理者の事業との連携
- 民技会が持っている技術を生かせなかった。
- 団体同士の連携を図る場
- 生田緑地の利用マナー向上の取組
- 緑地までのアクセスが不便

【感想など】5

- やる気と卓越したアイデアが自分に不足
- 大所帯すぎて動きがにぶい。(アクションにつながりにくい)
- 各団体を全て同じとして扱っている。
- 協働のプラットフォームを目指していない。
- 協働のプラットフォームの意味が理解できずに良かったこと、悪かったことの意見を出している人も少なくなかった気がします。もっと誰にでもわかる日本語を使って。気おくれを感じて会議に参加するのが気が重くなる人が出ないようにしてほしい。